

草津が  
ふるさと

# みんなで笑つて、 心も体も健幸に



落語家 桂慶枝さん

開催され、昨年8月の草津市での襲名披露公演も、客席と一緒に笑いで大盛況でした。

慶枝さん ありがとうございます。草津での襲名披露には、たくさんの方にお越しいただき、草津との縁は非常にありがたく感謝しています。

市長 「桂慶枝」の名跡は、明治43(1910)年以来の復活とお聞きしています。名跡を継がれた今、どのような気持ちですか。

慶枝さん 先代の四代目慶枝は、東京の落語協会の会長にもなっているのですが、どのような落語をやつていたのか、100年以上も前の方だから直接知っている方がいるなくて、あまり分かっていないのです。「慶枝」を一から作り直すような気持ちで自由にできて、かえってありがとうございます。

市長 あけましておめでとうございます。令和6年9月に「桂三風」改め、上方落語の名跡「桂慶枝」を襲名されましたこと、改めてお慶び申し上げます。全国で襲名披露公演を

一昨年、落語家として114年ぶりの復活となる名跡を襲名した、KUSATSU BOOSTERSの桂慶枝さん。全国で活躍する慶枝さん、草津での思い出や落語に対する思い、笑いと健幸について、橋川市長と語り合っていただきました。

だん仲間外れになってしまいまして。その頃は、郷土クラブで草津の歴史を勉強し、古墳群を巡ったり、土器探しに行つたりしていました。

市長 小学生で古墳を巡り歩いておられたのですね。その後、中学校生生活はどうでしたか。

慶枝さん 大阪にいた時は人気者だったのに、草津で面白いことを言つても、ちよつと話題が違つたんです。中学入学をきっかけにして自分を変えよう、中学で面白いことをいっふいやりたいなと考えていました。

そのような時に、たまたま書店で『艶話落語全集』という本を見つけました。興味があり買って読んでみたら、落語を短くまとめた本でした。それをホームルームでやつたら、すぐ受けたんですよ。それで落語に目

覚めました。高校は落語研究会がある学校を選び、人気者になりました。市長 落語家への第一歩は、草津での中学校生活にあったのですね。

慶枝さん 草津で過ごした12年間が僕の人生を決めてくれたと思っていきます。だから、僕にとって「ふるさと」は草津なんですよ。

## 「桂慶枝」襲名に決めた思い

### 新たな落語スタイルを考案

「今」の笑いを創りたい！

市長 どういう経緯で、桂文枝師匠に弟子入りされたのですか。

慶枝さん 大学時代、枝雀師匠に憧れて「三枝と枝雀」というテレビ番組のオーディションを受けて、レギュラーになりました。でも、枝雀師匠は楽屋でずっと稽古していく、とても話し掛けられない。逆に、三枝(現在は文枝)師匠は最初に会ったとき、いろいろなことを教えてもらいました。大学でも落語研究会に所属していて、自分で落語を創っていたので、新作落語を始めておられた文枝師匠に弟子入りを志願しました。

市長 慶枝さんは今も新作落語に力を入れておられますね。

慶枝さん

前にいるお客様が僕の

今回の撮影場所



### 史跡草津宿本陣(草津一)

江戸時代、大名や公家などが休泊した本陣。江戸時代の雰囲気を感じてみてください。

④ 9:00~17:00  
(入館は16:30まで)  
月曜日を除く  
(祝日の場合は翌日)  
問 ☎ 561-6636



慶枝さん KUSATSU BOOSTERSになったので、それぞれの地域のまちづくりセンターで落語会をやりたいと考えています。地域ごとにいろいろなエピソードを伺い落語を創つて、各まちづくりセンターや草津宿本陣などでも発表会ができると思っています。

市長 楽しみにしています。今後ますますのご活躍を期待しています。

## 草津が「ふるさと」 多感な時代を過ごした

市長 小学校4年生から大学生までの約12年間、草津に住んでおられたそうですね。

慶枝さん 大津市で生まれて、2歳で大阪府の茨木市に引っ越しました。前回の万博をやつていた頃で、茨木市は急成長して大きなまちになりました。小学校4年生の時に草津市に引っ越してきたのですが、当時の草津は田舎でした。遊ぶといつたら虫を捕まえに森に入ったり、琵琶湖で魚を釣つたりしていたのですが、僕はできなかつたです。「都会つ子」ぶつていたのでしょうかね。だん

## PROFILE

落語家 桂慶枝

1961年生まれ、大津市出身。  
1984年3月桂三枝(現・六代桂文枝)に入門。2007年11月、第1回繁昌亭創作賞受賞。  
2024年秋に三風改め「五代目桂慶枝」を襲名し、全国で襲名披露公演を開催。

